

アルプホルン奏者 深沢 正博さん（77歳）＝八満＝

「アルプホルンを吹いてみませんか？」と呼び掛ける深沢正博さんは全長3ｍ60㎝ほどもあるこの木製楽器を6本作った。2本を楽器収集家に譲り、1本は貸し出し中。手元には3本が残る。「管楽器を演奏した人なら音が出せます。ホルンのマウスピースが手元にあれば、持ってきてください。女性にも扱えます。楽器を手作りしたい人には指導しますよ」と言う。家族を連れて遊びに行った富士五湖の一つ河口湖畔でこの楽器の生演奏を聴き、その音の重厚な迫力に魅せられたのだと話す。富士山を望む大自然の中で聴く音は格別だった。「アルプホルンを作り始めたのは退職後だったので、1本を2週間ほどで仕上げていました。道具まで手作りして楽しそうでしたよ」と妻の喜代美さんは証言する。


チロリアンスタイルの深沢さん



思い出の演奏会
（写真提供：深沢 正博さん）

小学生の時に「教室にあるのと同じ」オルガンをねだって買ってもらったのが深沢さんの楽器との最初の出会い。すぐに両手で鳴らして遊んでいたという。5年生の時の担任がトランペットを貸してくれた。卒業の時に返したが、転校した先の中学で再びこの先生に出会ってトランペットを再び借りた。今度は小さな吹奏楽クラブで仲間と一緒に演奏できた。アンサンブルの楽しさが忘れられず、成人してからは趣味のジャズバンドでトロンボーンを担当した。今、深沢さんは「マウスピース使いのベテラン」になって「小諸草笛会会員」として日曜日の午後などに小諸懐古園を訪れた人に草笛の鳴らし方を教えている。音が出せた人は「小諸草笛会」の認定証がもらえる。「草笛のマウスピースにはマサキの若葉が一番」という深沢さんの家の庭にはマサキの幼木が多数植えられている。

アウトドアの楽しみ方も子どもの頃に覚えた。電力会社に勤める父と登山をした。発電用ダム湖の管理をする父の出張に付いて行ったこともある。高校生になると仲間を誘ってテントを張り、キャンプを楽しむまでになった。手先が器用なのは父親譲りで、縫製も得意。揃いのスカーフを作り、アルプホルンのメンバーに配った。多くのアルプホルン愛好家は長いこの楽器を三分割してゴルフバッグに入れて運ぶが、深沢さんのバッグは紳士服仕立職人でもあった父が残したミシンで縫った、布製のオリジナル作品。「父が使うミシンの音とリズムを思い出しながら作った」という。

自然に恵まれた長野県には多くのアルプホルン愛好家がいる。特に大町諏訪松本地域に盛んで、佐久にもグループがある。深沢さんは全国の愛好家の集いに参加もした。御嶽山噴火犠牲者の鎮魂のために演奏をした。商業施設のオープニングセレモニーに招かれたこともある。レパートリーは「アメイジンググレイス」「アヴェマリア」「エーデルワイス」など。

深沢さんは50年以上大切にしたオルガンを分解修理して化粧直しをした。今はふるさと山梨県にある、廃校になった中学の校舎を利用して作られた宿泊施設「ヘルシー美里」に置かれている。深沢さんは「大切に使えば楽器は長持ちします。アルプホルンに興味がある人は電話をください」と呼び掛けている。

【深沢さんの電話番号】
☎0267-23-5549

（取材・文　佐藤 万千子）

エイジングと薬膳

ジビエで老化防止!?



ジビエ、好きですか。肉を食べる機会が増える12月。最近では鹿肉カレーやハンバーガーなど、ジビエが身近になっています。そこで、ジビエの効能を考えてみます。一般に猪、熊、鹿の肉をジビエといい、信州で最も目にするのが鹿肉。タンパク質含有量はジビエ中最も多く、かつ低脂肪。必須アミノ酸やビタミン、ミネラルを多く含んでいるのが特徴です。薬膳では四肢の冷えや足腰の痛みに効能が。

昔からぼたん鍋として有名な猪肉は、牛肉や豚肉にくらべて鉄分が多く、皮膚の乾燥やストレス、過労、糖尿病、関節炎の緩和にも。コラーゲンが多く、乾燥しやすい高齢期には適した食材といえます。

さて熊ですが、熊肉を食したことのある人は少ないはず。熊肉は猪肉同様コラーゲンが多く、老化や白髪の改善が期待できます。さらに足腰の痛みや脚気、関節炎の改善も。

簡単には手に入らないジビエですが、老化防止に役立ててみてはいかがでしょう。

（国際中医薬膳師　小清水由良）